

日本臨床検査専門医会

平成 18 年度第二回常任幹事会議事録

平成 18 年 3 月 17 日

平成 18 年度 第二回常任幹事会 議事録

開催日時：平成 18 年 3 月 17 日(金)、15 時～16 時

場 所：日本臨床検査医学会事務所

参加幹事：森三樹雄、水口國雄、石和久、池田斉、メ谷直人、橋詰直孝、宮地勇人、
佐藤尚武

参加監事：玉井誠一

欠 席：熊谷俊一、濱崎直孝

(敬称略)

議事録署名人に、石和久幹事、メ谷直人幹事を指名して議事に入った。

報告事項

(1) 各種委員会報告

情報・出版委員会（石委員長）

薬事日報社の Medical Academy NEWS に、日本臨床検査専門医会として、
月一回トピックスを連載する件で、第一回は石先生が原稿を書くことになっ
た。

未来ビジョン検討委員会（メ谷委員長） 特になし

資格審査・会則改定委員会（橋詰委員長） 特になし

渉外委員会（池田委員長）

3 月 17 日に振興会セミナーの打ち合わせ会を行い、「診療報酬」をテーマ
に実施することになった。

教育研修委員会（宮地委員長）

① 教育セミナーについて

各セミナーの最終的な受講者数について、資料を提示して報告があっ
た。63 回（慶應大）と 65 回（防衛大）は定員一杯の応募があっ
た。

② GLM セミナーについて

本年度 G L M セミナーのプログラムについて、資料提示の上説明
があった。準備状況についても報告があった。

③ 「臨床検査医学卒前卒後研修教育ワーキンググループ」について
臨床検査医学独自のカリキュラム策定を目指し、ワーキンググル
ープを立ち上げるとの報告があった。

(2) 平成 18 年度の活動状況について（佐藤）

前回の幹事会議事にに基づき、第 4 回と第 6 回の常任幹事会日程を変更した。
変更箇所を修正した新しい年間行事予定表が資料として提示した。

(3) 臨床検査振興協議会について（森会長）

臨床検査ガイドラインハンドブック配布事業への協力

日本臨床検査医学会との話し合いで、当会の負担金は 50 万円に決定し、
協議会に支払った。

(4) 内保連への加盟について（森会長）

内保連には加盟できる見通しである。

(5) 春季大会について (佐藤)

① 第 16 回春季大会

群馬大学の事務局から送られてきた春季大会のプログラムが提示された。特別講演のテーマは「臨床検査と国立大学独立法人化」である。幹事は是非参加して欲しい。

② 第 17 回春季大会

大会長の伊藤先生から、現時点で特に進展はないと報告を受けた。

(6) 平成 18 年 4 月改定について

今回の改訂に対する対応方針を検討する際の資料はないか。

資料を解析し、JACLaP WIRE に掲載することになり、大谷先生、宮地先生、水口先生、池田先生に原稿を書いてもらうことになった。

(7) その他：特になし。

審議事項

(1) 平成 18 年度補正予算案について (佐藤)

平成 18 年度予算案を一部修正したものを資料として提示し、説明した。庶務経費中の人件費、通信費、設備費が増額となり、事務所賃貸料は減額となった。また必要経費中、臨床検査振興協議会への支払いが、ハンドブック分担金分が増額した。

昨年から事務所を借り、庶務経費が増加した事が最大の理由である。対応策としては、振興会会員の拡大による収入を考えている。予算案は原案通り承認された。

(2) 各種委員会委員の任期について (森会長)

委員の任期は決まっていなかったが、任期は 2 年で、再任を認めるが、最大 4 年とする事に決定した。教育研修委員に各教育セミナー担当者を加えることになった。各委員会で今後の業務引き継ぎも視野に入れ、委員の数を増やし、もう一度検討する。5 月をめどに委員を追加したり、入れ替えを行う。各委員に対し事務局から委嘱状を出すことにする。

(3) 臨床検査振興会会員の拡大について (森会長)

現在の振興会会員一覧と、今年新規に声をかけた会社のリストが資料として提示された。各幹事は資料に掲載されている以外の会社で、可能性のありそうなところに参加を呼びかけて欲しい。

(4) その他

法人化の問題や、専門医の拡大については、法人化は現在ペンディングである。専門医の拡大には努めているが、十分な効果を上げているとは言えない。

(森会長)

以上

議事録署名人

平成 18 年 4 月 11 日

 ^ス谷直人 印

平成 18 年 4 月 4 日

 石 和久 印